

## 黒瀬 聖司 氏 学位審査結果の要旨

主査：塩島 一郎

副査：松田 博子、湊 直樹

急性心筋梗塞の7割は、狭窄度50%未満の軽度冠動脈プラークがプラーク破綻をおこすことにより発症することが知られており、軽度冠動脈プラークの評価は重要である。一方、心臓リハビリテーションは心疾患の予後を改善する治療の一つとして確立されているが、軽度冠動脈プラークに対する心リハの効果についてはこれまで知られていなかった。そこで本研究では急性冠症候群患者の責任血管に残存する軽度冠動脈プラークについて、心臓リハビリテーション（心リハ）の効果が検証された。急性冠症候群で冠動脈インターベンションをおこなった患者41名を心リハ群21名と非心リハ群20名にわけ、入院時と6ヵ月後の冠動脈造影においてステント治療部位よりも末梢の軽度冠動脈プラークを定量的に解析したところ、心リハ群のプラーク面積は有意に減少し、非心リハ群は有意に増加した。すなわち急性冠症候群者に対する心リハにより、冠動脈の軽度冠動脈プラークが退縮することが示唆された。本研究は心リハの軽度冠動脈プラークに対する効果を初めて明らかにしたものであり、臨床的意義も大きく、学位に値すると考えられた。